

まいがんにつき 晦巖日記 学習塾 受講生募集

「晦巖日記学習塾」では金剛山大隆寺第15代住職 晦巖が記した日記の解読を進めています。

学習塾では、受講生を随時募集しており、どなたでも参加が可能です。

古い字を解読してみたい方、江戸期の宇和島藩政や庶民の生活に興味のある方、お気軽にお問い合わせください。

【開催日】 毎月第1・3土曜日（10:30～12:00）

※5・8・1月の第1土曜日は開催されません。

【開催場所】 宇和島市立中央公民館 3階会議室

【講師】 渡部良彦先生

【参加申込・問合せ先】 宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課

TEL : 0895-49-7033

E-mail : bunkap@city.uwajima.lg.jp

晦巖日記(まいがんにつき)学習塾 参加申込書

〒	
ご住所	
お名前	
連絡先	

学習塾に参加されたい方は、宇和島市教育委員会文化・スポーツ課に電話、E-mailでお申し込みいただくか、この参加申込書に必要事項をご記入のうえ、宇和島市教育委員会文化・スポーツ課までご提出ください。

漚生漚滅轉大法輪	(漚生漚滅、大法輪を轉ず。)
灰頭土面不存纖塵	(灰頭土面、纖塵を存ぜず。)
龍宮海藏魚目混蟻	(龍宮海藏、魚目蟻に混ず。)
盲喝瞎棒弄假成真	(盲喝瞎棒、假を弄して真と成す。)
誰知巧盡拙出笑殺遇舜若多神	(誰か知らむ、巧盡きて拙出舜若多神を笑殺せしむるを。)
明治二年己巳南至前一日	(明治二年己巳南至前一日)
晦巖自題照子	(晦巖自ら照子に題す。)
時年七十有二	(時年七十有二。)

【意 訳】

うたかたの身(晦巖)が、偉そうにも仏法を説きよるわい。
 身も飾らず、俗気も無いが、宝石に混じった小石じゃもの。
 誤魔化しだらけの説得じゃ。いったい誰が気づこうかいの。
 死後、塗りが剥げて舜若多神に笑われようとは。

金剛山大隆寺第 15 代住職 晦巖(まいがん)。寛政 10 年(1798)に生まれ、文化 4 年(1807)に出家。深く漢学に通じ、京都等に遊学して豊かな知識を蓄えたとされています。宇和島市の指定文化財「晦巖日記(まいがんにつき)」は、天保 3 年(1832)から明治 5 年(1872)までの晦巖の日々の記録です(但し現存するのは文久元年(1861)までのみ)。上段の記述は、晦巖が自らの事を述べたものです。現在、「晦巖日記学習塾」の皆さんによって解読が進められており、令和 8 年 2 月には解読版の第八集が出版されました。

日記には日々の天気や人事応接等の記録が記されていて、当時の暮らしや晦巖の感じたことなどが、読み取れます。

